

平成 21 年度エコマーク事業収支決算報告

財団法人日本環境協会
エコマーク事務局

平成 22 年 6 月 28 日に開催された財団法人日本環境協会の評議員会・理事会において、平成 21 年度エコマーク事業収支決算が承認されました。下表に決算書を示します（次頁に詳細説明）。

平成 21 年度エコマーク事業収支決算報告書
(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)

△減(単位:千円)

科目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A	備考
I. 収入の部	千円	千円	千円	
1. エコマーク事業収入	196,000	187,986	△ 8,014	
2. 環境省委託等事業収入	10,000	5,130	△ 4,870	
3. エコマーク事業資金引当預金取崩収入	10,000	0	△ 10,000	
収入合計	216,000	193,116	△ 22,884	
II. 支出の部				
1. エコマーク事業費	35,100	28,459	△ 6,641	
認定事業費	16,180	12,033	△ 4,147	
普及啓発費	8,940	9,111	171	
調査研究費	280	208	△ 72	
国際協力費	9,700	7,107	△ 2,593	
2. 環境省委託等事業費	6,000	5,130	△ 870	注記
3. 管理費	174,900	159,468	△ 15,432	
人件費	106,900	94,950	△ 11,950	
事務費(賃借料等の協会共通経費含む)	68,000	64,518	△ 3,482	
支出合計	216,000	193,057	△ 22,943	
収支差額(収入-支出)	0	59	△ 59	

注記：収入の「2. 環境省委託等事業収入」に人件費、管理費が含まれるため、支出の「2. 環境省委託等事業費」の決算額には、関係分の人件費と管理費を含めた。

1. 平成 21 年度エコマーク事業計画・予算の背景と平成 21 年度事業概況

平成 20 年 1 月に発覚した古紙偽装に端を発する、一連の環境偽装により収入が大きく落ち込む中、平成 21 年 2 月にエコマーク事業 20 周年を迎えたことから、平成 21 年度事業では 20 周年記念事業として①記念講演会の開催、②GEN 年次総会の日本開催などの事業を計画し、このため、事業計画および予算は過去のもの大きく組み替えて作成し、平成 21 年 3 月 18 日開催の第 22 回エコマーク運営委員会に諮り、承認された。

平成 21 年度事業では、エコマーク 20 周年事業を一つの柱として、エコマークのステークホルダーに対して新たな関係の構築に努めた。

2. 収入

1) エコマーク事業収入

平成 21 年度のエコマーク事業収入は 187,986 千円となり、予算に対して 8,014 千円の減である。

平成 20 年度エコマーク事業収入は 204,468 千円で、予算に対して 4,932 千円の減であった。エコマーク使用料は契約者毎に入金月が異なり、入金額を入金月に基づき年度間で按分するという会計処理が原因して、平成 20 年 1 月に発覚した環境偽装の影響が平成 21 年度の事業収入に全面的に反映され、平成 20 年度と比べてより大きな減収として現れたと考えられる。

2) 環境省委託等事業収入

2 件の委託事業を受託し、収入合計は 5,130 千円であった。

3) 収入合計

収入合計は 193,116 千円で、予算に対して 22,884 千円の減である。

3. 支出

1) エコマーク事業費

エコマーク事業費は 28,459 千円で、予算に対して 6,641 千円の減である。

費目別の支出概況

(1) 認定事業費（委員会・WG 運営費、WG 業務外注委託費、システム保守・改造費など）

・認定事業費の支出は予算に対して 4,147 千円下回った。

・主な要因：①類型・基準制定委員会の開催回数が予定より少なかった。②WG 外注委託費について内製化に努めた。③通信費などの固定的費用の圧縮に努めた。

(2) 普及啓発費（小売店キャンペーン運営費、ホームページ管理費、各種イベント・

フェア参加費、マスメディア広報費、20周年記念事業費など)

- ・普及啓発費の支出は予算に対して171千円上回った。
- ・主な要因:①パンフレット制作費、東海三県一市キャンペーン協賛費の抑制を図った。エコマークニュースについては、類型・基準制定委員会の開催の都度発行しており、類型委の回数が少なかったことにより、ニュースの発行回数が予定より少なく、支出が減少した。②エコマーク20周年記念事業で予算に計上していなかった20年史の発行を行い、支出が増加した。

(3) 調査研究費 (アクションパネル検討委員会費)

- ・調査研究費の支出は予算に対して72千円下回った。
- ・主な要因:①委員会費は予算の範囲で執行された。

(4) 国際協力費 (GEN 総務事務局運営費、GEN 会費、海外ラベル協力活動費、年次総会運営費、資料英訳費)

- ・国際協力費の支出は予算に対して2,593千円下回った。
- ・主な要因:①海外ラベル協力活動費で、日中韓環境産業円卓会議の環境ラベルWGに係る作業負荷が大きく、予算を上回った。②世界エコラベリング・ネットワーク GEN の年次総会を日本で開催するにあたり、予算を下回る範囲で効果的に総会を開催することができた。

2) 支出合計

エコマーク事業費に環境省委託等事業費と管理費を含めた支出合計は193,057千円で、予算に対して22,943千円の減少である。

4. 収支差額

収入合計から支出合計を差し引いた差額は59千円であった。

以上